令和５年度長浜市産業振興ビジョン懇話会・要点録

■日時：令和５年１０月６日（金）　午後３時００分～午後４時３７分
■場所：長浜市役所３階　３－Ｂコミュニティルーム
■出席：
≪委　員≫別紙委員名簿のとおり
≪事務局≫商工振興課課長、同課課長代理、同課職員３名
≪若者局≫未来こども若者局長、課長代理

１．開会

２．議事

（１）第３期長浜市産業振興ビジョンの進捗状況について
【意　見】
委　員： 今後、このビジョンをどう使っていくのか？
事務局： 行政の産業振興施策の方向性を定めるものであり、各種事業を本ビジョンに基づき実施する。また、行政のためだけの計画でなく、事業者や産業支援機関など地域産業に関わる全ての人が今後の産業のあり方を共有するためのものとして位置づけている。
委　員：県内の倒産件数はコロナ以降、増加傾向にある。負債額も倍近くに増加。
ローカルな長浜が生き残るためには、賃金を上げざるを得ない状況であるが、物価上昇に追いついておらず実質賃金はマイナス。また、賃金を上げても、速やかにサービスに転嫁することは難しい。
湖北地区の事業者は、他地域と比較して年齢が比較的と若いと聞く。また、県南部からすると、長浜は地域内の足並みが揃いやすいと言われており、この２点が湖北地域の強みと言える。
事務局：創業塾の参加者も他地域と比較して若い参加者が多いと聞いている。
現在、市は若者にフォーカスして頑張っていこうとしている。事業者が若いといった強みを活かすことで、ビジョンの実現を図りたい。
委　員：この資料では、各事業の具体的な数値や実績が示されておらず、意見を出しにくい。Ｉターンとか、設備の導入支援とか、評価のためには具体的な数値を示すべき。
そうした実績から、若い人でもどういう属性の人が創業しているのか、例えば親から事業を継いでいるのか、外部から移住して創業しているのか、内容を解析すべき。
座　長：属性などの事実がはっきりしない部分もあると思われる。時間的な制約から、調べ切れていないこともあるとは思うが。
事務局：事業の実績やその内容について詳細に評価いただく事も必要だが、本懇話会では事業の方向性について議論・評価いただくことを目的としている。限られた時間内で議論いただくことから、個別事業の実績等の資料は割愛し、全体像や社会経済のトレンド、

今後の求められる行政の支援等を検討するための資料に絞らせていただいた。来年度はご意見も踏まえ、資料の見せ方を考えたい。

若い事業者の属性分析だけでなく、産業全体として各種データの分析不足は課題。

委　員：若者の採用だけでなく、中途採用も苦戦している。仕事があるだけでなく、住みやすい、住みたいと思えることが大切なキーワードになる。それが子育てのしやすさか、娯楽の充実なのか、医療福祉の充実なのか、重点的に注力していく分野を決めた方が良いと思う。

３．意見交換（テーマ　『若者にとって魅力ある仕事を創る』）

【意　見】

委　員：人口減少の流れは止められない状況。地域内の人口が減少すると、企業は投資をしなくなる。長浜市で投資しても仕方がない、地域外で投資して、収益を上げていくという判断になる。

魅力ある仕事を作るために「地域内企業の魅力を知る」とあるが、そもそも「長浜」で働くという選択肢を若者が持っていないのが問題。企業は採用活動に多大な経費を要しており、例えばリクルートサイトを通じて中途採用すると、一人あたり１００万円経費がかる。若者が長浜を就職の選択肢から除外していると、企業としては若者にアプローチすることも難しい。

長浜が若者にとって帰りたい街になっていない。住むのには長浜が不便と感じている人が多く、長浜に住まなくなる。

こうした背景から、市外に出てしまう若者を呼び戻すことは難しい。市内の教育水準を上げ、優秀な人材を市内で育て、市内に定着させるといった、優秀な人材を長浜に留めるスキームが必要。

委　員：特にデジタル人材の不足が課題。大学にもデータサイエンス学科ができるが、そうした人材をどうやって地域内に留めるかが課題。

委　員：若者は仕事内容でなく、自分の生活を楽しみたいという割合が高い。そういう意味では、アウトドアなどレジャー面で長浜は割と充実している。

一方で、長浜は交通の便が悪いことが多大な影響を及ぼしている。大学の講義時間に合う電車が無いため、１時間くらい大学で時間を潰す学生が多い。

また、学生は田村駅より北の長浜駅には行かない。学生が長浜市内を移動できる仕組みがあると良い。

企業の魅力を高めるというよりは、生活を楽しめる、長浜ならこんなことができる、という発信の仕方もあるかと思う。子供の教育面だけを考えると、京都や県南部などに住んだほうが便利となってしまう。

委　員：企業の魅力は、企業が決め、企業自身の努力でしか磨けない。行政の支援の範囲ではない。

委　員：入社してすぐはモチベーションを持っていても、しばらくすると、別に出世しなくて

も良いという考えになる若者が多い。上司からすると出世してほしいとは思うが、出世よりも余暇を楽しみたいという気持ちが非常に強い。

委　員：再就職したい母親達にとって、仕事よりプライベートを充実させることが最優先事項。長浜でどんな暮らしができるのか、どんな大人が長浜で暮らしているのか等、仕事と暮らしがしっかりと見えるような発信が必要。

高校生と話すと、長浜は好きでずっといたいという人は多いが、長浜でできることが少なく、やむを得ず出て行ってしまう人が多い。若者に、長浜の良さをどれだけ伝えていけるかが重要になる。子育てしやすいまち、というのがしっかり伝わると良い。

委　員：長浜は他の市町と比べたらよくやっているという印象。

意外だったのが、長浜で結婚しても米原や彦根に出ていく人が多いこと。

市外や県外に進学で出て行って戻ってこない。戻ってくる人は一定数いるが。

高校生が地元の企業を知らない、というのは親の影響もあると思う。

委　員：若い世代でもタイプによって就職先に求めるものが異なる。「イノベーション」を生み出せる人材は非常に優秀な人材で、市外に出てしまっている。長浜市出身で長浜に就職する子は、ゆとりのある生活を求めるタイプが多く、仕事や学業に対するモチベーションが低い子が多いように見える。

イノベーションを生み出せるような優秀な人材を市外に出さないことが重要。

委　員：産業施策として起業を軸足に置きすぎるのは良くないと感じている。本来、起業してから事業として成り立たせていくまで、馬車馬のように働く必要がある。起業は働きやすく自己実現しやすいというイメージを抱いて、ゆるい気持ちで起業してしまうのはどうかと思う。

委　員：今の若い子は地域課題を解決することに興味があるが、起業しても結局お金を稼げないとわかるとやめてしまう人が多い。やめてしまってからは、次の職場を探すのにとても苦労する。最近の傾向で「簡単に起業できる」というイメージを持ちやすくなっている。

若者局：転出者へのアンケートデータを見ると半分が長浜に戻りたいと答えているが、アンケートに答えている時点で、地元に興味がある人だとは思うので、一概にデータが正しいとは判断しづらい。長浜でどういう働き方ができるのか、企業の認知度もあげることも重要。長浜全体で、子育てに力を入れているという風土を醸成できるよう進めている。

委　員：関東で下宿させながら関東の大学に行かせられる家庭はかなり減っている。

関東の大学には、関東の家から通っている人が多い。

委　員：長浜は車社会とは言え、若者の交通手段は公共交通機関がメインだと思う。

委　員：経済的に考えると、県内の大学に行くのが一番だが、県内の大学では学びたいことが学べないから出て行ってしまう。

委　員：大学のレベルによっては希望する企業への就職が難しくなる。大学に行くことが目的となっており、特別学びたいことがないのであれば、高校を出てすぐ地元の企業に就

職する方が、自らが希望する企業へ就職できる。

座　長：先日、虎姫高校で授業をしたが、純朴で非常に良い高校生ばかりだった。
そうした子たちが、進学ではなく地元の企業に就職するという選択ができるようになっても良いと思う。

４．閉会

以　上

令和５年度　長浜市産業振興ビジョン懇話会　参加委員名簿

（敬称略・順不同）

	氏　　名	機　関　等	職　　名	分　野
1	上田　雄三郎	滋賀大学 産学公連携推進機構	特任教授	学識経験
2	髙橋　善孝	長浜商工会議所 扶桑工業㈱	副会頭 代表取締役社長	商工業
3	鹿城　律人	長浜市商工会 カシロ産業㈱	副会長 代表取締役	商工業
4	森　和之	長浜みらい産業プラザ 新江州㈱	会　長 代表取締役社長	商工業 異業種交流
5	佐藤　光隆	湖北地域雇用対策協議会 ヤンマーパワーテクノロジー㈱	副会長 小形事業部 総務部長	商工業 雇用対策
6	田邉　勇次	地元金融機関 長浜信用金庫	常務理事 管理本部長	金　融
7	伊藤　正恵	長浜バイオ大学	学　長	学　術 新産業
8	宮本　麻里	長浜地域雇用創造協議会 合同会社LOCO	構成員 代　表	女性就労
9	松本　茂之	デジタルイノベーション研究会 ㈱プロクルー	役　員 代表取締役	情報通信
10	北川　雅英	一般社団法人 長浜ビジネスサポート協議会	業務執行理事	産業支援
11	古川　英一	長浜公共職業安定所	所　長	労働雇用